

第1A(小)分科会 教育課程に関する課題

提案主題 学校改善に向けた主要主任とのかかわり

サブテーマ ～主任へのはたらきかけを通じた実践へつなげる教頭の関わり方～

協議の柱 教頭として、各部会がアンケート等を生かした指標の検証・改善をし、さらに3部会がバランスよく実践につなげるためのかかわり方。

提言者 大分市立高田小学校 園田弘幸

1 質 疑

- (1) Q 企画委員会のメンバー構成は。
A 校長、教頭、教務、低・中・高学年部の各代表、臨時に3部の部長、提案者。
- (2) Q 評価・目標管理・授業観察シートなどのアンケート項目の増加に対する工夫は。
A できるだけ重ねている。削りながら余分なアンケートを取らないようにしている。
- (3) Q 項目を絞らないと、教職員がアンケートに答えるだけで終わってしまわないか。
A 各主任に検討してもらったが減らないのでこちらで減らした。意識付けはできた。
- (4) Q 教職員や主任の年齢層、部会の開催頻度は。
A 教職員は50代が多いが20代が増えてきている。主任は50代一人40代三人。
毎週火曜日に学年会、木曜日に分掌部会を入れている。公開研があったために研修部会が多くもたれた。そのため体育部会や生活部会は隙間時間に20～30分入れた。

2 協 議

- (1) 主要主任に声かけをし、情報を集めてもらい、その情報を共有していく。重要な課題に関しては、細目に相談する場を教頭が設定することが重要である。
- (2) データの処理や評価に関しては、教頭と教務で作業を分担すること、さらに児童・保護者・教職員など評価対象者間での結果の違いを分析し、次につなげる必要がある。
- (3) 学校経営案にそってポイントの絞られたアンケート項目が望ましい。分析や集約に関しては、項目によって主要主任にしてもらったり意見を聞いたりすることが大切である。
- (4) 分掌をできるだけ整理し、一人一役制などにして学校の課題を担う意識付けをしていく。また、若手を抜擢し主要主任を経験させていくなど、人材の育成が大切である。

3 指導助言

- (1) 知徳体の重点課題を明確化し、その改善に向けた組織を作り、主任に対する働きかけを適宜適切に行い、きめ細かな進行管理をする。
- (2) 主要主任の指名から目標管理シートの提出、進捗状況の報告、具体策の作成に関する指導助言等の一連の流れの中で、ねぎらいの言葉がけや意欲付けをしていく。
- (3) 日頃から、豊かな人間関係を築き、信頼の絆を結ぶ。適切な評価、賞賛、指導助言、よさや問題点の伝達、資料提供などを行い、主任の自尊感情と参画意識を高めていく。